仙台大学紀要
2007, Vol.39, No.1, pp.68－76

資　　料

仙台大学スポーツ情報マスメディア学科の教育と運営戦略
～新入生に対してのアプローチ～

勝田　隆、粟木　一博、佐藤　宏、中房　敏朗、太田　四郎、荒井　龍弥、
斉藤　浩二、石丸　出穂、涌田　龍治、内野　秀哲、藤本　晋也、八重樫　瞳

Education and management strategy of the Department of Sport Intelligence & Mass Media at Sendai University.
～The approach to education of the new students～

Takashi Katsuta, Kazuhiro Awaki, Hiroshi Sato, Toshiro Nakafusa, Shiro Ota, Tatsuya Arai, Koji Saito, Izuho Ishimaru, Ryuji Wakuta, Hidetaka Uchino, Shinya Fujimoto, Hitomi Yaegashi

The Department of Sport Intelligence & Mass Media (hereinafter referred to as "the Dept SIM") was established at Sendai University in this academic year. The purpose of this report is to show the educational ideas, educational contents and the management strategy of this new department. The Dept SIM aims to foster talents who have high-level ability to deal with sport information. Purposes of the Dept SIM management are as following; first is to take information with dignity, second is to continue to mention the essence, third is to establish its laboratory and to cooperate with a variety of other institutions.

1．はじめに

仙台大学は、体育・スポーツ系大学として、スポーツの普及や競技力向上の観点から、スポーツに関する情報・メディアを科学的にとらえ、関連する分野において社会に貢献する有為な人材を育成することを目的として、スポーツ情報マスメディア学科（以下「ＳＩＭ学科」）を新設し、今年度より25名の第一期生を迎え教育活動をスタートした。

本報告は、ＳＩＭ学科が新学科としてスタートした時点での教育活動戦略と経営戦略の概要についてまとめたものである。

2．教育目標の概要

本学科の教育目標はマスメディアを通じてすべての人が豊かにスポーツに関わることができることを希求する姿勢を形成することとスポーツ情報を戦略的に取り扱うことによってそれに関わるすべての人がその価値を見出し、延いてはその人生で幸福を手に入れることを支援する態度を育むことである。

この目標を達成するために二本の柱を設定した。一つはマスコミュニケーションのあり方を根本から学び、そのあり方、使命を世に問いつつ情報を発信する態度を身につけることであり、もう一つはスポーツ情報を単なるデータではなく知的な情報にまで高めることができる能力を培うことである。

これらのことを習得するために獲得が必須となる素養として、文章を正しく書く技術を含めた広報活動に対する理解、情報を取得するための取材方法、報道に対する深い見識、データを高いレベルで処理するための技術、画像編集技

術などを挙げることができる。

もちろん、これらが単なる技術や知識にとどまっていてはならない。スポーツ全体、あるいは情報を取り扱うための倫理観、人間を理解し、相互交流を図りながら活動ができる人間関係を構築するための人間力がこれらの能力の基礎となっていなければならない。

また、目標となる内容は教室の中だけでは育つことはないし、演習や実習が行われてもそれが学内の狭い範囲でのみ行なわれるものであるとするならば大きな効果を生み出すことはない。本学科では極めて広い範囲に学生を派遣し、一人ひとりの学生が自分自身の領域を確立し、その分野で実際に仕事をすることを前提にカリキュラムを進行させることを特徴としている。

3．育てたい人物像

ＳＩＭ学科では、情報を媒介としてスポーツに関わる、人あるいは組織集団を支援する人材の育成を図るという前提に立ち、従来の体育・スポーツ系大学には見られない新しい人材育成分野を開拓することに大きな特色を見出そうとしている。

具体的には、「スポーツ現場で生まれる情報を、分析し、加工し、発信するスペシャリストを育てる」というスローガンのもと、表１に示すような人材（情報のスペシャリスト）の育成と輩出を目指し、進路開拓も含めた教育活動を展開する。

4．カリキュラムの構成と概要

ＳＩＭ学科のカリキュラムは、情報を扱う者としての社会性や行動規範の源となる能力啓発を目的とした「スポーツ情報倫理」と、相互交流を図りながら活動ができる人間関係構築能力の育成を目的とした「ヒューマンリレーション」を基盤的授業として位置づけている。（図１）

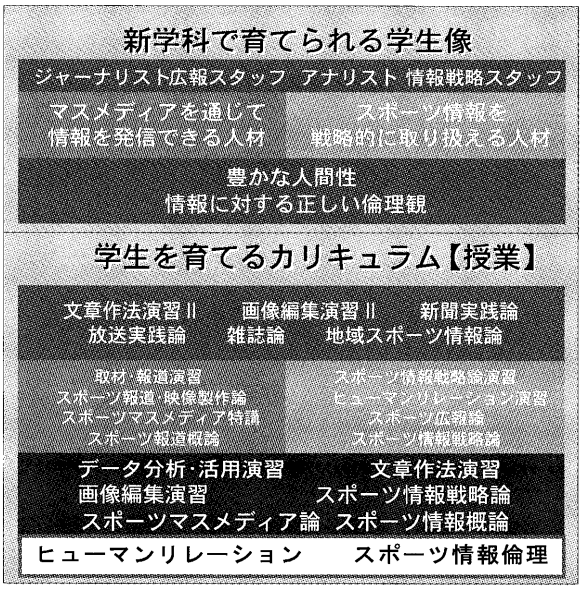

図１　ＳＩＭ学科のカリキュラム構造概念図

表１　育成と輩出したい人材（情報のスペシャリスト）

職種	機能および活動内容
ジャーナリスト	新聞、雑誌などのメディアに記事や素材（情報）を提供するスペシャリスト提供するスペシャリスト
報道スタッフ／アナウンサー	一般大衆に対して社会に必要なニュースを提供するスペシャリスト
広報スタッフ	組織や個人の活動を、多くの人に伝え、理解してもらうためのPR活動を行うスペシャリスト
情報戦略スタッフ	競技力向上などの分野において、目標達成のために必要な情報を収集・分析し、意志決定のために必要な判断材料を提供する「知」のスペシャリスト
スポーツアナリスト	高度な専門知識と分析技術を活用し、情報を分析するスペシャリスト

この基盤の上に、スポーツ情報の収集、加工、編集、発信を中心とした理論・方法等を学び・研究するための授業を展開し、特に、２年次からは、スポーツ情報戦略コースは、競技力の向上や試合などおいて、目標達成のために必要かつ有効となるあらゆる情報の分析の方法や情報を有効に役立てる方法、戦略的に提示する方法などを学ぶことを目的とする。スポーツマスメディアコースは、報道・広報の世界で活躍する人材の養成を目指す。どちらかのコースに所属し、より専門的な学習と卒業後の進路のための学習と研究を行なう。なお、ＳＩＭ学科のカリキュラムと領域の授業内容の概要は表２、表３に示した。

表２　ＳＩＭ学科カリキュラムの概要

			第１学年	第２学年	第３学年	第４学年
基礎科目・32単位以上選択必修	教養基礎科目		導入演習、情報処理、学習基礎演習、英語Ａ（含外国語コミュニケーション）、英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）			
	教養展開科目	人文分野	哲学入門、現代の思想、日本の古典、近代日本の文学、心理学概論、人の心と行動			
				ことばと人間Ａ、ことばと人間Ｂ		
		社会分野	マネーとマーケット、日本経済の現在、法学			
			地理学入門、歴史学入門、歴史と人間	社会学概論、社会構造と人間関係	文化人類学入門	
		自然分野	物質の科学、地球環境の科学、生物科学、エコロジー概論			
			力と運動、熱とエネルギー		地球科学	
		放送大学	放送大学Ａ・放送大学Ｂ・放送大学Ｃ			
		全学教養演習		全学教養演習Ａ、全学教養演習Ｂ		
	海外文化科目			イングリッシュ・リーディングＡ、イングリッシュ・リーディングＢ、英会話Ａ、英会話Ｂ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ	イングリッシュ・トランスレーション、スポーツ＆イングリッシュ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ	
	人生設計科目		キャリアプランニングⅠ	キャリアプランニングⅡ	キャリアプランニングⅢ	
専門基礎科目・27単位以上選択必修	講義		スポーツ史、スポーツ経営学、スポーツ社会学、スポーツ心理学、スポーツ指導の基礎（含実習）、文章作成法演習Ⅰ	スポーツ情報概論、スポーツメディア論、スポーツ情報倫理、画像編集論演習Ⅰ、データ分析・活用演習Ⅰ、ヒューマンリレーション演習Ⅰ		
	実技・理論		陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、海浜実習、スキーⅠ	器械運動、サッカー、ラグビー、キャンプ、スケート		
発展科目・25単位以上選択必修	スポーツ情報戦略コース			スポーツ情報戦略論、スポーツ広報論、スポーツ情報戦略論演習Ⅰ、スポーツ戦略論実習Ⅰ	ヒューマンリレーション演習Ⅱ、スポーツ情報戦略論演習Ⅱ、スポーツ情報戦略論実習Ⅱ	卒業論文又は制作
	スポーツマスメディア・コース			スポーツ報道概論、スポーツマスメディア特論、スポーツ報道・映像制作技術論、取材・報道演習Ⅰ、取材・報道実習Ⅰ	取材・報道演習Ⅱ、取材・報道実習Ⅱ	卒業論文又は制作
	選択科目			文章作成法演習Ⅱ	地域スポーツ情報論、新聞実践論、放送実践論、雑誌論、画像編集論演習Ⅱ、データ分析・活用演習Ⅱ	
応用科目			体育原理、解剖・生理学、運動生理学、レクリエーション実技Ⅰ、社会調査法Ⅰ、教育の基礎理論、教育の制度、生涯学習概論Ａ、ボランティア活動実践Ａ	日本国憲法、スポーツ計量学、スポーツバイオメカニクス、衛生・公衆衛生学、レジャー・レクリエーション論、レクリエーション実技Ⅱ、新体操、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、教育の心理、保健体育科教育論Ⅰ、教育相談、生涯学習概論Ｂ、教育社会学、ボランティア活動実践Ｂ	学校保健学、コーチング概論、スポーツマーケット論、スポーツ産業論、地域スポーツ戦略論、企業スポーツ論、エアロビックダンス、ニュー・ゲームズ、テニス、ダンスⅡ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、教育課程論、保健体育科教育論Ⅱ、保健体育科教育論Ⅲ、保健体育科教育論Ⅳ、教育方法論、社会教育計画Ａ、社会教育演習Ａ、ボランティア活動実践Ｃ	スポーツ政策論、スポーツアテンダント論、音楽・器楽演奏、レクリエーション支援論、バドミントン、ソフトボール、ゴルフ、社会調査実習、社会教育計画Ｂ、社会教育演習Ｂ、ボランティア活動実践Ｄ
教職科目			教職論Ａ	道徳教育論、生徒指導論Ａ（含進路指導の理論及び方法）、特別活動論	教職演習、教職キャリア演習Ⅰ、教職キャリア演習Ⅱ、保健体育科授業研究Ⅰ、保健体育科授業研究Ⅱ、教育実習Ⅱ	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ
					教育実習Ⅰ	

表３　ＳＩＭ学科領域の授業内容（概略）

【専門基礎科目】

■スポーツ情報倫理

「情報化時代において個人と社会のあるべき姿」についてスポーツ分野を中心に論じる。スポーツにおける情報教育の重要性や情報を取り扱うために必須となるマナーや倫理観について講義する。主な講義のテーマは、①情報倫理とは．②スポーツ・体育分野における倫理上の諸問題と背景．③ネチケット．④知的所有権．⑤プライバシー　⑥スポーツ報道の自由と課題．⑦個人情報保護．など

■スポーツ情報概論

本講義では現在、スポーツ現場においてどのような情報が取り扱われているのかを概観し、今後のスポーツにおいて情報活動がどのように展開されるのかといった展望や、情報の扱い方・活用に関する基本的な知識・手段（手法）などについて学ぶ。主な講義内容は、①スポーツの発展および普及と情報．②競技力向上と情報．③情報リテラシー．④情報活動とその戦略性．④情報と政策．　⑤スポーツ活動現場とメディアとの接点．など。

■スポーツメディア論

スポーツ現場において新聞やテレビを中心としたメディアの一般大衆に対する影響力はその取り扱う情報の質・量からも極めて大きい。一方で、その影響力の大きさは、情報操作や特定の個人への誹謗中傷記事に代表されるような問題も産み出している。本講義では、スポーツメディアの役割や現状、課題などについて学ぶ。主な講義内容は、①メディアスポーツへのニーズ　②メディアスポーツの現状と課題　③スポーツ享受への支援と責任。

■ヒューマンリレーション演習Ⅰ

どのように情報機器やそれを取り扱う技術が進歩しても、スポーツにおいて用いられる情報を媒介するのはあくまでも人間である。そのため、話を聞く、話すというコミュニケーションを基本とした円滑な人間関係の構築は情報を取り扱うために非常に重要となる。本演習では人間関係の構築のために必要とされる技術、例えばコミュニケーション、プレゼンテーションなどを体験型のワークショップを通じて獲得することを目的とする。

■文章作成法演習Ⅰ

文章作成能力は、情報伝達の基礎能力のひとつである。ここでは、「文章の素材の収集」や「収集した素材の整理・構成」あるいは「文章表現」、「文書の作成・活用」といった文章作成能力育成の基礎を学ぶ。更に、文章を人に有効に伝えるために素材の抽出やそれを効果的に配置する方法（シナリオ作成）や自分のアイディアやコンセプトを文書化する方法（ドキュメンテーション）についても演習する。

■データ分析・活用演習Ⅰ

データを分析するということは一次的にその性質を明らかにすることにとどまらず、その潜在構造に言及するということが含まれなければならない。さらにそれを活用するためには有効な加工、編集が行われている必要がある。本演習ではスポーツに関連する多様なデータを材料とし、データの分析手法の基礎を学ぶことを目的とする。データの種類に応じた分析方法の選択や、基礎的な統計解析手法、ならびに有効なデータ提示手法を学ぶ。

■画像編集論演習Ⅰ

ビデオカメラや映像編集機器といったＩＴ関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著でありコーチングやプロモーションなどさまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、画像分析や編集を専門的に行うスタッフのニーズも高まっている。本演習では、スポーツ情報を効果的に伝えるために必要な画像分析や編集の方法について学ぶ。

【発展科目】

■スポーツ情報戦略論

今日、オリンピックに代表されるような高度な戦いの舞台で顕著な成績をあげその成績を維持するために、さまざまな情報活動が戦略的に展開されている。ここでは、競技力向上を目的とした情報戦略活動や試合を有利に進めるために必要とされるさまざまな情報戦略活動について学習する。主な講義内容は、①競技力向上を目的とした情報戦略活動の現状　②競技力向上に不可欠なスポーツ情報　③情報戦略活動の目的と方法．など

■スポーツ広報論

スポーツ現場の情報を、外部に向かって効果的かつ戦略的に発信する機能の重要性は、昨今、さまざまなスポーツ現場において高まっている。この機能により、スポーツ活動の公開性や認知・理解が促進され、活動を効果的に展開・発展させることができる。本講義では、スポーツ活動を発展させるため「広報活動」の現状やあり方、方法等について学ぶ。

■ヒューマンリレーション演習Ⅱ

ヒューマンリレーション演習Ⅰでは人間関係の構築のために必要な要素を技術として体験的に学んだ。実際のスポーツ現場でこれを活用するためにはこれらの技術を状況に応じて利用することが可能なものにしなければならない。そこで本演習では、実際のスポーツ現場において情報を取り扱う場面でどのような人間関係が存在するのかを分析するとともに、自分自身がそれらを経験することを目的とする。

■スポーツ情報戦略論演習Ⅰ

スポーツ活動や事業を推進・発展させるためには、素材となる情報（素材情報）を収集し、有用な情報（インテリジェンス情報）へと変換しなければならない。また変換された情報が、効果的活用されるためには、戦略的なフィードバックや発信が必要となる。ここでは、戦略的に情報を扱うシナリオ作成や、また、「収集」「分析」「加工」「提供」「発信」「管理」といった手順ごとの方法などを演習する。

■スポーツ情報戦略論演習Ⅱ

スポーツ情報を戦略的に扱う活動は、活動および事業目的達成を目的として、さまざまな分野において行われている。ここでは、情報を扱う「場」に視点をおき、それぞれの分野で行われている特長的な情報活動のプロセスや手法などを演習する。具体的には、①競技力向上を目的とする情報戦略活動．②総合型地域スポーツクラブで必要とされる情報戦略活動．③行政に必要な情報戦略活動．　④学校現場の情報教育における情報活動．など。

■スポーツ情報戦略論実習Ⅰ

情報を戦略的に扱う活動には、「競合相手に対応すること」や「外部環境やリスクへ対応すること」といった外向きのものと、また「目標達成のためのプロセス」に代表されるような内向きのものとが存在する。本演習では、競技力向上や「スポーツ振興やおよび普及を目的とした活動の場面で必要とされる、「内向き」と「外向き」の情報戦略活動の実際について学ぶ。特に、さまざまな役割が存在する組織的情報戦略活動の実際について学習する。

■スポーツ情報戦略論実習Ⅱ

卒業後の進路を睨んで特定の専門分野を選択し、（情報戦略活動の）インターンシップを行う。主なインターンシップ先として、国立スポーツ科学センター（情報部）、日本オリンピック委員会（情報戦略部会活動）、日本トップリーグ機構、トップレベルチーム（情報スタッフとして）、総合型地域スポーツクラブ、スポーツＮＰＯ、都道府県自治体情報関連部署、地域スポーツ医科学センターなどを想定している。

【選択科目】

■地域スポーツ情報論

総合型地域スポーツクラブや行政等における情報活動の現状や課題を明らかにし、生涯スポーツの普及や振興のために必要な情報活動のあり方を概論として学習する。

主な講義内容は、①我が国の地域スポーツにおける情報活動の現状と課題　②先進国の情報活動事例とその将来的展望　③総合型地域スポーツクラブと情報活動　など。

■データ分析・活用演習Ⅱ

情報をスポーツ現場に有効な形で還元するためには、その分析技術に長けているだけでは不十分である。必要とされる情報を適切な情報源から収集し、それを加工し、提示できるスキルをも兼ね備えていなければならない。そこで本演習では、より高度な統計的解析手法を学ぶとともに、提起された課題を解決するために必要とされるデータを収集し、その分析、活用を行うことを目的とする。

■画像編集論演習Ⅱ

画像や映像を効果的に提供するためには、情報発信の主体となる側の意図や目的を十分把握し、素材の収集から提供に至るまでのプロセスを組織的かつ戦略的に行う必要がある。

本演習では、事業や活動の目的達成のための組織的情報戦略活動の中で、コーチやマネジメントスタッフと連携した、画像編集活動について実践的に学習する。併せて、編集した画像（映像）を、効果的にフィードバックおよび提供するスキルについても学ぶ。

5．学科教育のキーワード

（1）「品」

テレビ番組におけるデータの捏造、ネット上での誹謗中傷これらは急激に発展し続ける情報化社会が産み出した負の遺産である。ここで必要とされるのは情報を発信する側が持つべき品位、受け取る側が身につけるべき品位である。この品位を養い、育むことを根底にすえた教育を展開することが、本学科の教育理念の中心となる。

この理念を具現化するため、前述したとおりＳＩＭ学科のカリキュラムおいては、情報を扱う者としての社会性や行動規範の源となる能力啓発を目的とした「スポーツ情報倫理」と、相互交流を図りながら活動ができる人間関係構築能力の育成を目的とした「ヒューマンリレーション」を基盤的授業として位置づけている。（図１参照）

（2）「ON」

「keep on」、「touch on」、「ON」という語には「何かをし続ける」、「強く触れる」などの意味がある。本学科の教育は文字通り、実物に「触れる」、発展、成長し「続ける」ことを重視している。高度で内容が濃いスポーツ現場での実習や学び続ける意欲を喚起するために、ＳＩＭ学科では、表２に示すような現場の活動視察や専門家から直接指導を受けるカリキュラムなどを積極的に展開している。

（3）「研究所」

従来の大学教育に欠けていたもの、現在大学教育が早急に供えなければならない機能、それは、外部の多様な機関、機能と「繋がる」ことに他ならない。図２は、ＳＩＭ学科設立と並行して開設を予定している「仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所（以下『ＩＳＩＭ』）の概念図である。ＩＳＩＭは、学外のスポーツ団体・組織と連携し、相互の資源や機能をつなげ、日本のスポーツ振興と、併せて学科教育の充実を目的として設置する。

ＩＳＩＭの主な活動は、「情報支援」・「人材育成」・「共同研究」の３つの分野に大別で

表３　現場学習の「場」（初年度前期）

活動場所	活動の種類	活動内容
学外	学外研修	日本トップレベルの映像分析スタッフ養成のためのIT技能習得研修会に参加
	現場実習	プロの現場から学ぶ。各種イベントやトップの試合において関係団体・組織の専門家から収集・編集・分析・フィードバックの方法などの作業等を帯同して学ぶ。
	視察	記者会見や取材、国際会議やトップレベルのワークショップ、シンポジウムや学会、ＴＶスタジオなど、実際の現場を視察し、最新の情報収集に加え、会議オーガナイザーのファシリテーションスキルや、プロのジャーナリスト・アナリスト、マスコミ関係者なの活動を視察する。
学内	特別講演	情報戦略やマスコミのトップなど、現場で情報を扱う活動に従事している専門家を招く。
	遠隔講習	国立スポーツ科学センターのイベントや、シンポジウムなどの学外の現場と学内演習室を繋いで、リアルタイムで学ぶ。
	特別講座	授業以外の場で、文章表現や映像編集、コミュニケーションスキルなどといったスキルを学ぶ。エキルトラ授業。

きる。「情報支援」の具体的な活動としては、ゲームおよびパフォーマンス分析（画像分析、データ解析など）、最新のスポーツ科学情報の蓄積及び提供、スポーツ科学情報の利用方法や競技力向上に関するコンサルティング、スポーツ関連組織雑誌・HP上へのコラム提供、スポーツ情報メールマガジンの配信などが考えられている。また、「人材育成」の分野については、人材発掘・育成プログラムの開発や講習会や研修会などを開催する計画であり、「共同研究」の分野では、スポーツ情報に関する学会を設立し、我が国のスポーツ情報研究を積極的に推進する母体となることを視野に置いている。

また、ＩＳＩＭでは、情報支援活動において分析・編集・フィードバックなどの作業を行うことから、質の高い人材確保のために、研究所と連携した学科学生の養成も重要な機能のひとつとして位置づけている。学科学生が、研究所において学外の生きた情報を扱い、業務レベルの作業を行うことは、学科教育の発展的姿であり、また、学生のキャリア教育の一環ともなると考えている。

以上のような活動をダイナミックに展開するために、ＩＳＩＭは、日本のスポーツの国際競技力向上を目的として設立された国立スポーツ科学センター（以下「JISS」）や国内競技団体、あるいは地域の情報・科学センター、そして他の体育系大学と連携する予定である。

6．2007年度の教育戦略

学科教育のキーワードを具現化するため、初年度生の年度教育方針は、「高校4年生ではなく、大学１年生の教育を展開！」をスローガンに以下のように定めた。

1）体育・スポーツ人としての教養と品格に関する教育基盤の確立

体育・スポーツに携わるものとして、また、情報を取り扱う者として教養と品格を身につけることは必須である。これを早期に教育方針の中に明確に位置づける。

2）プチ・インターンシップの導入

本学科では現場における実践から得られた知識を重視する。これを身につけるために早期のインターンシップ教育を実施する。学年進行にともなう密度の濃いインターンシップのための準備を早期から行なう。

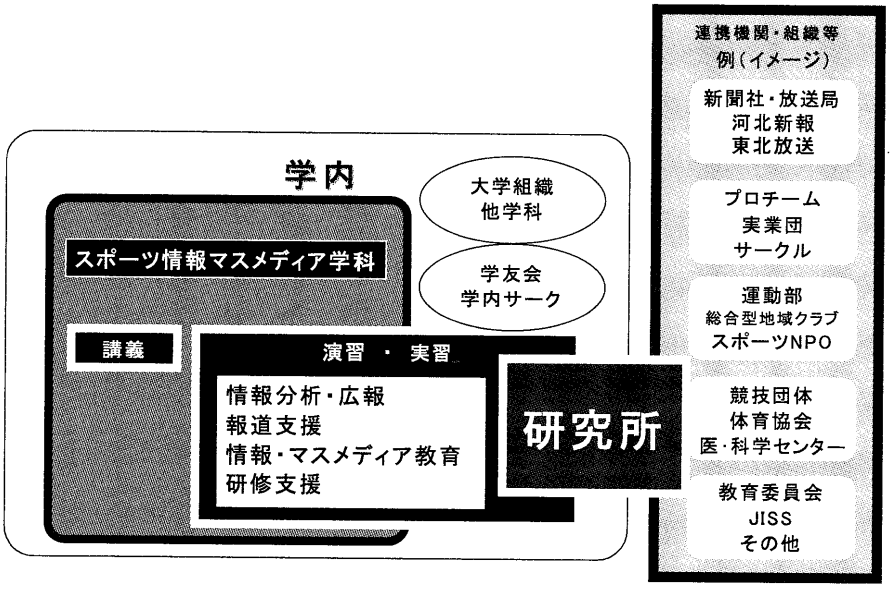

図３　仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所概念図

3）オフィス・アワー(研究室個別教育)の充実

研究室の門戸を開放し、学生生活、研究活動の支援に教員が個別で対応する。さらに、学生と教員が一体となって研究に取り組める雰囲気を醸成する。

4）個別自主課題の設定と発信・発表

高等教育において重視されなければならないのは「解答」を見つけ出す能力よりも「課題」を発見する能力である。学生が興味を持って取り組むことのできる課題設定を支援する。

5）学生とのコミュニケーションシステムの確立と充実

充実した学生生活のために積極的な対話、電子メール等の情報ツールの使用により円滑な人間関係の構築に努める。教職員に「接して学ぶ」。

7．2007年度の運営戦略

学科教育のキーワードを具現化するため、初年度生の学科運営方針は、「発信と公開」、「独創性と個性」、「外との連携」をキーワードにし、以下のように定めた。

1）教職員間のコミュニケーションの充実

教職員間の有機的な連携を確立することによって学生生活の充実に資する。教職員の教育研究活動の相互理解を図ることにより学科を自己研鑽の場とする。

2）保護者とのネットワーク確立

電子メールなどの情報ツールを駆使した「学科ニュース（仮称）」の配信を通じて教育研究活動を保護者に開示する。さらに、これを双方型の連絡機能にまで高める。保護者、学生、教員の「顔が見える」教育活動を実践する。

3）教育・研究内容の広報

揺籃期にある「スポーツ情報」、「スポーツマスメディア」分野をスポーツ界の中に明確な形で位置づけるために学科の取り組みを積極的に外部に開示する。

4）進路開拓活動の具体的開始

社会の中で学生が活躍できる「場」を積極的に提案していく。さらに、その「場」を開拓し、そこへの道筋を確保する。

5）学科内自己点検評価の具体的基準づくりと実施

学生による授業評価はもちろんのこと、教員による相互研修を充実させる。

6）研究所設立

本学科の教育研究活動はスポーツの現場が題材とされる。これは、外部のスポーツ機関との連携が生命線であることを意味している。これを確保することを目的として研究所を設立する。さらに外部の優秀な人材を招聘する役割を担う。

8．2008年度の受験生確保のための戦略

ＳＩＭ学科は、これまでの体育系大学には見られないユニークな学科であるため、2年目の入試活動においては、特に広報活動に重点を置き、以下に示すような受験生確保のための活動を展開している。

1）個性とブランドの確立（ブランド戦略の展開）

「これまでの体育系大学には見られないユニークな学科」。「知的能力の高い学生が集まる学科」というイメージの具現化を行なう。

2）市場調査・分析に基づいた広報活動戦略の確立

第一期入学生へのアンケートや聞き取り調査の結果を参考にした広報活動を企画・展開する。

3）入試方法の変更

2008年度入試においては、学科が求める人物の選抜機会を増やすため、ＡＯ入試および指定校推薦、特別推薦等の入試を実施する。特に前期ＡＯ入試においては、受験希望者がＳＩＭ学科の教育を十分に理解して受験してくれることを目的として、仮エントリーシステムを導入することとした。仮エントリーシステムの概要は表３のとおりである。

表３　ＡＯ入試（前期）仮エントリーシステムの概要

1．Entry
受付：オープンキャンパスおよび一日体験会．学外説明会時などにエントリー受付
2．Communication
時期：最終確認時まで随時行なう
内容：メールを通じて、学科担当教員と、仙台大学への入学意志の確認、教育内容の確認その他質疑応答を行なう
備考：このメールでのコミュニケーションの目的は以下の通り
1）学科の教育目標と自分の学びたい内容とが合致しているかどうかの確認作業
2）大学での教育および活動内容の確認
3）メールやレポートおよび質問内容などから文章表現力、思考能力、入学動機などの評価作業
3．Identification
時期：設定されたAO入試実施日
内容：1）面接：これまで行なわれてきたコミュニケーションが本人の医師によるもので本人が考えた過程であることを確認するために実施される。
2）レポート作成：電子メールで作成された文章が本人によって入力されたものであることを確認するために実施される。

4）学外体験学習

学科の教育活動の内容や入試方法の広報を目的とし、学外授業体験および説明会を実施する。

前期終了時点で３回（山形市．登米市．仙台市）実施され、のべ49名（高校生23名．教員21名．事務職員１名．保護者４名）の参加があった。このうち、ＡＯ入試前期仮エントリー生徒は４名であった。主なプログラムは、①学科教育の概要と進路、②第１期生のキャンパスライフ紹介、③受験方法の説明などであった。

5）一日体験会およびオープンキャンパスの実施

学科教育のさらなる理解を図るため2007年度は、「一日体験会」およびオープンキャンパスも実施することとした。

9．学科運営の機能と役割

学科運営を円滑に行なうため、表３に示すような機能を設け、それぞれの機能ごとに関係教職員が役割を果たすこととした。

表３　学科運営の機能と役割

■教育
・授業開発・評価　・本格的インターシンプの推進　・研究室機能の充実評価
・開かれた教室（サテライト教室・公開講座等）の推進
■研究（研究所）
・委託事業の経営　・プロジェクト研究の推進　・独創的研究活動の支援
・外部研究機関＆ステークホルダー組織との連携・提携
・ブランド戦略　「発信」機能向上戦略
・報道ステーションの設立　・情報ステーションの設立
■創職
・ポテンシャルの高い人材（学生）募集　・就職先の開拓・連携　・セカンドキャリア教育
■生活
・創造的なキャンパスライフの提案と指導　・学生生活の掌握
・保護者との連携　・出身校との連携　・同窓会等との連携　・その他

10．参考文献

1）「仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科設置届出書」．仙台大学．2006